

独自性あふれるホテルに ココチホテル沼津

沼津駅北口を出てすぐ、左側に見えるおしゃべりな建物が「ココチホテル沼津」だ。

このココチホテルの客室の床は畳張りになっている。この理由について社長の大嶽龍太郎さんは「ホテルのコンセプトとして、日本の心地よさを味わえるホテルにしたいと考えている」と話している。

沼津駅周辺には、様々なビジネスホテルが建ち並ぶが、ココチホテルはどのように差別化を図っているのか。

畳敷きの部屋以外にも、デザインスルームやビジネススルームなどを用意し、様々な宿泊者のニーズに答えている。

また、朝食の炭火で焼かれたアジの干物食べ放題は、宿泊客から好評を受けている。朝食に力を入れる理由について大嶽さんは「以前、父が経営していたホテルはこれといった特徴がありませんでした。そこで、胃袋に直接訴えることで特徴づけられると考えました」と話した。

このようにココチホテルは、他のビジネスホテルにはない魅力を取り入れたことで宿泊者から人気を博し、今では宿泊者の内約三割が観光客となっている。

今後の目標として、インパウンドの外国人観光客増加を掲げ、更なる客層の獲得を目指すそうだ。



▲自由に使え
シェアキッチンも完備

沼津駅周辺には、様々なビジネスホテルが建ち並ぶが、ココチホテルはどのように差別化を図っているのか。

畳敷きの部屋以外にも、デザインスルームやビジネススルームなどを用意し、様々な宿泊者のニーズに答えている。

また、朝食の炭火で焼かれたアジの干物食べ放題は、宿泊客から好評を受けている。朝食に力を入れる理由について大嶽さんは「以前、父が経営していたホテルはこれといった特徴がありませんでした。そこで、胃袋に直接訴えることで特徴づけられると考えました」と話した。

このようにココチホテルは、他のビジネスホテルにはない魅力を取り入れたことで宿泊者から人気を博し、今では宿泊者の内約三割が観光客となっている。

地域見直す 交流の場として

ホテルニューオータケが経営するもう一つのホテル「コナステイ伊豆長岡」は、コミュニティに重きを置いている。

一階は地域の公共スペースで、観光客や地域の方の交流の場の役割を担っている。

大嶽さんは「観光客との交流により地域の方に地域の良さを見直してもらいたいです」と話した。



このホテルでは「自転車×地域の魅力×企画力」をモットーに、利用客が電動自転車（eバイク）を借りてガイド付きの八つのサイクリングコースで伊豆を旅することができる。

また、客室のマイバイクを置けるスペースや世界のコースを走れるシミュレーターなどの室内設備も整っている。

大嶽さんは「更に多くの人に自転車の魅力を知ってもらいたいです」と語った。

日本で唯一 自転車ホテル

コナステイ最大の特徴は、サイクリングに特化したホテルであることだ。

このホテルでは「自転車×地域の魅力×企画力」をモットーに、利用客が電動自転車（eバイク）を借りてガイド付きの八つのサイクリングコースで伊豆を旅することができる。

また、客室のマイバイクを置けるスペースや世界のコースを走れるシミュレーターなどの室内設備も整っている。

株式会社ホテルニューオータケ



今号では、静岡県東部に2つの宿泊施設を構えるホテルニューオータケと、医療機器の精密部品を製造する東海部品工業を取材した。

東海部品工業株式会社

東海部品工業株式会社は1947年に創業された、ネジ部品や医療機器などを製造する会社だ。

製造しているネジについて専務取締役の伊藤藤泰之さんは「本社である沼津工場では自動車用のネジを、天城工場では医療用のネジやマイクロネジという小さなネジを作っています」と話した。マイクロネジを作り始めたのは1999年。それまでは自動車関連部品のみを作っていたが、それだけでは技術革新の激しい時代に対応できないと考え、マイクロネジ事業部を開設した。

試行錯誤を重ね、それまで培ってきたネジの加工技術を生かすことで完成に漕ぎ着けた。こうして作られたマイクロネジは主にハードディスクドライブやラジコン、模型などに使われている。

また、東海部品工業株式会社は農業事業も行っている。一見関係のない農業事業をなぜ始めたのかを聞くと「ものづくりには観察



▲会社について語る

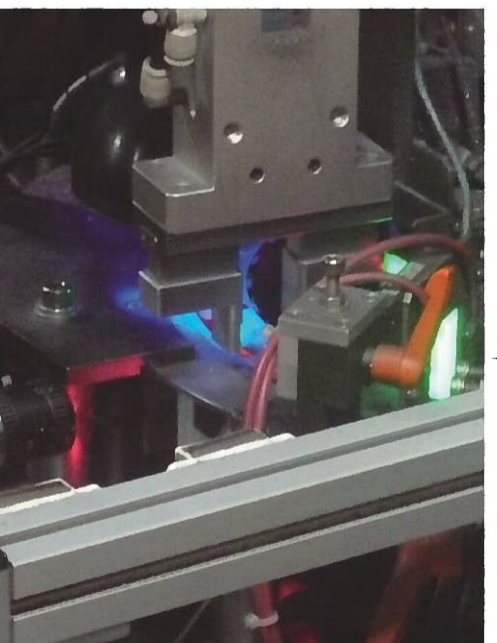
力や好奇心、持久力が必要だ。これらを学べるのが農業だと考えました」と話した。

東海部品工業株式会社の主要な事業の一つに医療機器事業がある。外国製の商品が多くを占める医療機器分野で日本人の骨格に合うことを特徴とした製品を数多く作っている。

もともとこの事業は社長の友人の医師に医療機器用ネジの開発を頼まれ始めたそうだが、最初は日本のどの企業も加工技術がないため、一から加工方法を考えなければならなかった。更に、医療機器への規制は厳しく、挑戦と失敗を繰り返して、チタン製インプラント用ネジを開発するまで八年間かかったそう。

医療機器事業で培った技術を電気自動車用のネジの制作に役立てるなど、新たな挑戦によってこれまでの事業を更に発展させる。そのような姿勢が変化する世界に対応する企業を作り上げている。

自社の魅力について取締役の盛田勇気さんは「中小企業でリソースが少ないので、全て自分でやる必要がありますが、難しさはありますが、自分で世界を創ることが出来ます」と話した。



▲素早くネジの検査をする

企業は挑戦で 日々発展する

東海部品工業株式会社の主要な事業の一つに医療機器事業がある。外国製の商品が多くを占める医療機器分野で日本人の骨格に合うことを特徴とした製品を数多く作っている。

もともとこの事業は社長の友人の医師に医療機器用ネジの開発を頼まれ始めたそうだが、最初は日本のどの企業も加工技術がないため、一から加工方法を考えなければならなかった。更に、医療機器への規制は厳しく、挑戦と失敗を繰り返して、チタン製インプラント用ネジを開発するまで八年間かかったそう。

編集後記

今回、取材させていただいたホテルニューオータケは宿泊者の心地よさを追求し、東海部品は型にはまらない発想と技術力の追求を続けています。地元企業のごうした追求が地域の魅力につながると実感しました。ご協力いただいた皆様に感謝致します。

【担当】
沼津東高校新聞部

まち・ひと・しごと

「まち・ひと・しごと新聞」は、静岡県東部地域の高校生が地元企業を取材、記事制作し、静岡県東部・伊豆地域の高校・自治体等に配布している新聞です。高校生に地元企業の産業、文化への理解を深めてもらい、近い将来、就職を考える際に「地元への就職」を考えるきっかけになることを期待し、年一回発行しています。